

三 浦 義 光 議員



防災をテーマに一般対象の
出前講座を

問

防災について聞く。

- (1) 6～8月に行われた防災をテーマとした市長出前講座【関連記事11面】は、区長等が対象だったが、一般に紹介する機会はあるか。
- (2) 自宅の安全点検や食料、飲料水3日分の備蓄など、一人一人で行う自助は、減災で大変重要になってくる。市の啓発活動を聞く。

団体申請で気軽に
申し込みを

答 防災安全課長

- (1) (市長出前講座以外に) いろいろなテーマでまちづくり出前講座を行っている。防災は23年度7回、24年度4回、自治会集会などに職員を派遣している。

▲市長出前講座【7月31日・十四山地区】



安心な地産地消
給食の推進を

問

学校給食について聞く。

- (1) 放射能から食の安全を守る動きが、行政レベルでも加速している。
- 市は、独自の測定器を購入する予定はあるか。
- (2) 市の食育に関する取り組みの概要を聞く。
- (3) 地産地消が安全・安心の観点から高まっていると思う。

市の考え方、取り組みを聞く。

地元米等を優先
使用している

発などを掲載している。

答 学校教育課長

- (1) 空間線量を測定する機械を、25年度購入できるようにしていきたい。
- (2) 食育授業や親子試食会を実施し、食の重要性の周知を図っている。

また、収穫体験する場を設けている学校もある。

9月4日、新米試食会を全小中学校で開催し、地元米等も周知している。

(3) 県内、海部地域の食材の優先使用を心掛け、米は、海部南部産のあいちのかおりを使用している。

原発事故以後、長野・静岡県より東の17都県の野菜等の生産物は、事前にサンプル食材を県学校給食会に持ち込み、放射線量を計測し、安全を確認して使用している。

今後は、食材選定、納入に際し、学校、教育委員会、県学校給食会、食材納入業者と連絡を密にし、産地確認、国の出荷制限等の情報に留意し、安全確保に努めていきたい。